

第1学年 音楽科学習指導案

1 題材名 箏の響きを味わいながら、我が国の伝統音楽に親しもう

2 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法，平調子による旋律，構成に関心をもち，基礎的な奏法で演奏したり，音楽表現を工夫しながら音楽をつくったり，鑑賞したりする学習に主体的に取り組む。
- (2) 箏の音色，平調子による旋律，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように演奏するか，旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な，基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏したり音楽をつくったりする。
- (4) 箏の音色やリズム，旋律，形式などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて鑑賞する。

3 主な〔共通事項〕 音色，旋律，形式

4 題材設定の意図

本題材では，中学校学習指導要領第1学年A(2)「イ 楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること」と(3)「ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること」，そして，第1学年内容B「イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，鑑賞すること」と関連している。ここでは，箏を演奏したり鑑賞したりしながら，我が国の伝統音楽に親しむことをねらいとしている。

本学級の生徒は，ほとんどの生徒が伝統音楽を好きと答えている。理由は音色がよい，聴いていると落ち着く，日本の文化感じられるからなどの回答が多かった。一方で，あまり好きではないと答えた生徒の理由を見ると，馴染みがない，聴いたことがないと回答している。しかし，そのような生徒たちの中にも，伝統音楽のよさを知り，伝えていきたいという考えをもっている生徒がいることがアンケートから分かった。

指導に当たっては，まず，器楽の活動において「さくらさくら」を演奏し，箏の構造や音色，奏法について学習する。次に，秋をイメージした詩や絵をもとにして，創作の活動を展開する。1学期の創作活動では，リズムづくりに苦戦している生徒が多く見られた。そのためここでは，ペア学習を取り入れたり，簡単なリズムパターンを用いたりすることで，楽しくスムーズに旋律づくりに移行できるような工夫をしていきたい。また，生徒の思いや意図に合った奏法（後押しや裏連など）や簡単な伴奏を加えることによって箏の特徴を最大限に生かした創作活動を実践していきたい。そして，最後に「六段の調」を鑑賞する。鑑賞では，箏の音色や奏法だけではなく，日本の伝統的な演奏様式でもある「序破急」を味わったり，楽曲の背景を考えたりしていく。箏を用いた活動を通して，伝統音楽のよさを十分味わわせることができるようにしたい。

5 教材について

- 「さくら さくら」 日本古謡
 「六段の調」 八橋検校 作

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①箏の音色や奏法，平調子の旋律などの特徴に関心をもち，基礎的な奏法で演奏し	①音色や旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，	①箏の特徴を捉えた「さくらさくら」にするために必要な，基礎的な奏法などの技能を	①「六段の調」の音楽を形づくっている音色，旋律，形式などを知覚し，それらの働きが生

<p>たり、音楽表現を工夫して音楽をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②音楽の特徴とその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>楽器の特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②言葉や平調子の旋律や音素材の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>身に付けて演奏している。</p> <p>②言葉や平調子の音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりしている。</p>
---	---	--	---

7 学習活動と評価の計画（6時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	題材の評価規準
第1次 (2)	○箏の特徴や奏法を生かした音楽表現をするための技能を身に付けて演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の特徴や奏法について知り、「さくらさくら」を演奏する。 ・「さくらさくら」を旋律と伴奏に分けてペアで演奏する。 	音色 旋律	アー① イー① ウー①
第2次 (3) 本時は 第1時	○表現したい音楽のイメージをもち、思いや意図をもって、音楽をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・つくったうたから旋律を考える。 ・箏の簡単な奏法を用いて、イメージに合った音楽をつくる。 ・演奏会をし、互いの音楽を聴き合う。 		アー① イー② ウー②
第3次 (1)	○箏曲の特徴やよさなどを味わう。	・音色や旋律、形式などに気を付けて、「六段の調」を鑑賞する。	音色 旋律 形式	アー② エー①

8 本時の学習（第2次、第1時）

(1) 目標

- ・言葉を手掛かりにして、音の動きやリズムを工夫して旋律をつくる。

(2) 準備・資料

- ・箏、ワークシート

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆評価規準）
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちのうたに合った旋律をつくろう。</p> </div> <p>2 旋律をつくるときの約束ごとを確認する。 〈旋律づくりの約束〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七の音から始める。 ・となり合った音を用いて進行する。 <p>3 旋律をつくる。 〈予想される生徒の反応〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくら」の旋律の特徴を思い出し、となり合った音を用いて進行することでまとまりのある音楽をつくることを確認する。 ・言葉のイントネーションを基に音の動きを考えたり、リズムを工夫したりできるように、うたいながら旋

<ul style="list-style-type: none"> ・葉が落ちていく感じをだすために，四分音符だけでなく八分音符も使って動きをつけてみよう。 ・虫の鳴き声に近付くようにするために，七七七と同じ音を繰り返し使おう。 ・七八九と上がるより，七六五と下がる方が言葉のイントネーションに近いよ。 ・4小節目は一度落ち着く感じにしたいね。 <p>4 本時の学習を振り返り，次時の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>音色を工夫しながら，自分たちのイメージに合った音楽を完成させよう</p> </div>	<p>律づくりをするよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律づくりが進まないペアには，具体的に音の動きを例示するなど，教師とともに考えることで，自分たちの旋律がつけられるようにする。 <p>◆箏の音色や奏法，平調子の旋律などの特徴に関心を持ち，基礎的な奏法で演奏したり，音楽表現を工夫して音楽をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。ア－①（発言，ワークシート，観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は，つくった旋律に飾りの音や簡単な伴奏などを付けて，自分たちの音楽を完成させることを伝える。
---	--

箏の響きを味わいながら、我が国の伝統音楽に親しもう

工夫したところ	中		工夫したところ	七		曲名	
前の音の低い音が 高い音へ変えられた		み	どの音も 下がっていくように 変えられた		み	紅葉	
		中		れ	七		み
		為		ほ"	六		を
		斗		い	七		す
		十		ろ	七		ま
		十		め	六		せ
		九		ん	五		ば"
		八		あ	六		か
		七					
タ・タを繰り返して リズムを変えた			タ・タが繰り返した のでのぼして リズムを変えた				
		六		か			
		六		き	五	た	
		六		い	六	か	
同じリズムでなく 音符をつけて ちがう感じに			おしと水に するたため タ・タを繰り返した				
		○			五	た	
		五		ろ	四		
				三	と		
				○			

↑上 - → 五 | 二 → 七